

第2回新しい学校づくり基本方針検討委員会 会議録

2024年9月10日 15:00～16:50

須坂市役所 305 会議室

○日時 2024年9月10日(火) 15:00～16:50

○場所 須坂市市役所 305 会議室

○出席者 委員7人、事務局5人

1 開 会

2 あいさつ

勝山教育長：

- 現在開催中の9月市議会でもこの検討委員会や基本方針案について質問があり、また各団体からの要望もあった。
- 私は色々な見方があっても当然だと思いが、将来を考えたときに子どもにとって、どれを取っても100点ということはない。今できる中で最大限用意してあげるものは何かということ、この検討会や策定委員会で検討し案として、それを市民にお示ししていく。
- そして市民からご意見をいただいて、変更するところは変更する。
- 委員の方が今思っていること、将来不安なこと、こういう点も検討しなければいけないということがあれば、意見を出していただきながら基本方針案をまとめていきたい。

3 委員会の日程について

4 議 事 (進行：委員長)

事務局：説明

- (1) 第1回検討委員会等が出された意見
- (2) 基本方針案の市民向けパンフレット素案
- (3) 基本方針素案について意見交換
学校類型、学区、再編スケジュールなど

委員長：

- まず学校類型については、義務教育学校と小中一貫型学校の2つの類型で進めて行くという点に意見はありますか。

委員：

- 須坂支援学校の位置づけをどうするかという点は大事なことだと思う。市立の支援学校

として開校した理念や、須坂小学校の中でのインクルーシブな教育などを大事に特別支援教育を進めてきた。

- それを踏まえて、今後の学園構想の中で支援学校を独立させるのか、あるいは常盤ブロックの新校の中に位置づけるのか、大事に考えていく必要がある。

事務局：

- 現在の須坂小と須坂支援学校の状況を見ていると、教室の確保など難しい状況がある。施設一体よりは、同じ敷地内で建物は別々という形がよいのではないか。

委員：

- 新しい学校でも支援学校を設置した時の理念をきちんと踏まえているということが大事になる。
- 施設一体ではなくても、同じ敷地の中で常盤の学園構想の中に支援学校が位置づけられていることが大切だと思う。

委員：

- 支援学校についても基本方針案の中に入れておくことが大事だと思う。

委員長：

- 第2次再編の中で支援学校という言葉を入れた方がよい。施設一体なのか敷地一体なのかは今後ということで。

事務局：

- 施設一体だからといって交流が上手くいくということではない。同じ敷地に須坂支援学校があることは重要だけど、カリキュラム的なこともしっかり考える必要がある。

委員：

- 支援学校と小学校、中学校が空間として共有する場所はないといけないと思う。
- 基本方針案は支援学校についても記載していく。

事務局：

- 以前、東部児童センターで勤務し、一番感心したのは、須坂小の子どもたちの須坂支援学校の子どもたちに対するインクルーシブな思いが育っていること。
- 小学校と支援学校が一緒にあることによって常に支援学校の子どもたちと接し、東部児童センターでも、一緒に施設にいる。だから施設が繋がっていることで、間近に小学校の低学年からずっと見ていくことが、子どもたちの情操教育的な部分で大事になる。
- 小学校と支援学校の位置関係は、早めに提案する構想を持っていた方が、支援学校の保護者にしても安心する。

委員長：

- 学校類型については、義務教育学校と小中一貫型学校ということによろしいか。施設分離型、施設一体型について、年代によって違ってくるというような構想も出ておりますが、これはこれでよろしいですか。→委員了承
- 次に学区について意見があればお願いします。

委員：

- 地域に説明する時に、高甫はなぜ墨坂学区から東中学区にするのかという話が必ず出てくる。人数だけの問題かとなる。

事務局：

- 須坂市は学園構想で、新たな4つの学区を作りたい。そこに小中一貫型学校と義務教育学校を作っていくことが、新しい時代の教育として必要だと説明する。
- だから学校が無くなるとか、無くならないではなくて、全て新しい学校になる。そこに、新たな学区の子どもたちが入ってくる。そういうことを丁寧に説明したい。

委員：

- 適正規模の検討を経ているので、その上で新しい学びの実現について進めていく。
- 豊丘地域づくり市民会議の資料に「新しい学校名は第1小学校など地域と関係ない学校名に」とあったが、その通りだと思う。今ある学校の名前を使うのは、統廃合っていう認識になってしまう。
- 4つの学園構想の中で、新しい子どもたちの学びの場を作っていくということを説明をしていく。

委員長：

- 高甫地区からすれば、東3校だけでは駄目なのかという意見になる。東3校で義務教育学校を作ればよいのではという意見が出てくる。
- 将来的に東中学校が50人位になってしまう。その時、多様な価値観に触れるという、そこを大切に学校づくりをしていく必要がある。

委員：

- 高甫も豊丘地区も大人の意見が出てくるが、逆に子どもたちにこういう未来予想図を見せた時に、子どもたちがいいというか、今までがいいのというか、それも大事。
- 小学校高学年、中学生がどう思うか。自分の学校が無くなり、新しい学校ができることに、それいいとなれば積極的に進められる。

委員：

- どここの小学校を変更するとかではなくて、須坂市の全部の小学校を一旦閉校して、新しい4つの学園を作っていくということを説明したらはどうか。
- もう一つ、スクールバスも重要なカギだと思う。なぜかというと、須坂はコンパクトなので4つの学校を作って、子どもが行きたいところに行けたらよいのではないか。

- 先日、テレビで北海道の公立の学校が紹介されていた。インタビューを受けた子は、自分がやりたいことがやれる、その学校を選んで通っている。理想的すぎるかもしれないが、子どもが学校を選んでいく方法もあるのではないかと思う。

委員：

- 学園構想というタイトルはすごく、ワクワクしてよい。しかし、資料を読むと、初めにいきなり適正規模が出てくるので、新しい学校とはハード面だけなのかという印象をこの案を見た時に思った。
- 須坂市ではこんな学校を作っていきますというものを、市民の皆さんに分かってもらえると、もっと説得力を増す。
- 私も好きな学校に行けたらよいと思う。その時にどんな4つの特色のある学校があればいいのか。
- 例えば、ある学校は部活に力を入れている。またある学校は、勉強に力を入れている。また別の学校では、集団が苦手な子たちがのんびり学校生活を送れる。また、大学とか目指さないで、とにかく地域でこれから活躍していきたい。中学卒業して高校も地元の高校に入って、その後就職を考える。そういう4つにもう思い切って振ってしまう。それで子どもたちが自分でどんな学校行きたいか選んでもらう。
- 小学校の段階で選ぶのは難しいかもしれないので、中学校に上がるときにもう1回、選択肢があると、自分はこの学校に行きたいなとなる。
- 逆に、あえて4つの学校は一律で、どの学校へ行っても同じ教育が受けられます。でもよいと思う。そういうものがこの構想の中に出てくるのが大切ではないか。
- 須坂モデルも、もっと子どもたちが体験とか経験ができる、外に出て遊んだりできるということを載せた方が絶対楽しい。
- あとは専門家を呼んで、もっと専門的な学びができますとか。STEAM教育も踏まえて。
- 現状だと市のバスも予約が一杯で使えない状況があるけど、外に出てどんどん遊んで、体験しておいでよという学校ができたらもっと楽しくなるのではなか。そういうところをもう少し表現できると、新しい学校とか学園構想にワクワク感が出るのではないか。

委員長：

- 2人から斬新な提案をいただいた。ただ、須坂市でのこれまでの議論の経過、須坂モデルや適正規模等審議会を踏まえた教育委員会の基本方針案だと思うので、難しい部分もあると思う。

事務局：

- 学校のカリキュラムが違って学校を選べるのはいいと思うが、年度ごとに児童生徒数が変わるなど、学校運営が難しくなることもある。

委員：

- 須坂モデルでは、9年間の学びの柱を羅列している。それは大事だけど、その具体をもっと少し分かりやすく示す必要はある。

- 例えば、総合的な学習「須坂街歩き科」について、探究をするプログラムを組む、とか、もう少し具体の部分が見えるようにブラッシュアップしていく。

委員：

- 新しい学校の魅力が伝わるのが大切。カリキュラム、中身が魅力になって、売りになっていくことが重要。

委員：

- 4つの学区で、それぞれどんな特徴が出せるか考えておくのはよいと思う。こことあそこが一緒になると、こういうことができそうだなとか。

委員長

- 本日の配布資料の広報案②の新しい学校像3点の具体と、4つの学区の特色みたいなものをもう少し基本方針案の中に書けるかどうか。

委員：

- 地域の方と触れ合うとか。その地域に住んでいるからこそ、地域の方に聞いて、何かを学んでいるとか。学校が地域に密着していますということが、もっと伝えられるとよい。

事務局：

- 新校になって学校と豊丘地域が離れた場合でも地域学習は可能だと思う。

委員：

- フィールドをもっと広く考えるのもありかなと。地域を豊丘とかじゃなくて、須坂市とか広い範囲で、色々な地域の人に来てもらって話をしてもらおう。広く須坂市をどうしていくかっていう方向で考えてはどうか。

事務局：

- 先生が言ったことは、高校ではクラス、学年を超えて、課題意識を持ったグループを作ってやっている。中学校でも少しそういうことをやっている。
- 須坂市全体はコンパクトだから、「須坂学」みたいなことでもいいとは思っている。ただ、発達段階に応じて、最初は生活基盤のある自分の身の回りからだんだん広くして行って、最後に須坂市のようにやった方がよいのではないか。高校に行けば、長野県、国際と広がっていく。

委員：

- 今後、仮に豊丘地域で体験農業システムを整えてもらえたら、常盤新校のあるクラスが、豊丘に住んでいない児童も含めて、そこに出かけようということがあってもよい。
- 現状、小山小学校の地区には畑が少ない。地域のエリアを広く見ることで、地域資源の幅が広がることも1つのメリットになる。豊丘に住んでいない子も豊丘を知るきっかけ

にもつながる。

委員：

- 先日、井上地域公民館で、井上小学校の子どもたちの通学合宿が企画された。支援する高校生は他地区からも来ていた。通学方法によっては井上地区以外の子どもが参加できると感じた。
- 地域から発信する子どもたちとの関わりは、今後もできそうだなと感じた。

委員：

- 小学校も中学校も地域学習においては、コミュニティスクールが地域公民館と連動して機能している。
- これからは、コミュニティスクールも少し柔軟に考えて、エリアを拡大した連合のコミュニティスクールで連携していけばよいと思う。
- 自分の地域の学校がなくなるという考えではなくて、他の地域と相互に乗り合って、プラスになるという考えで、行けばよい。そのような説明で広がっていくといい。

委員長：

- 本日の配布資料の広報案②の新しい学校像3点の具体と、4つの学区の特色みたいなものをもう少し基本方針案の中を書くことで、学園構想となぜその学区なのかということに説得力がだせるのではないか。

委員長：

- 通学区についても今の案でお認めいただくことでよろしいか。

委員：

- 学区検討のポイント①に、「・・・これまでの小学校の学区は崩さない」とあるが、その後の②③を考えると、この表現はなくてもよいのではないか。

事務局：

- 須坂学園構想をオール須坂で取り組む。その中で学区を4分割する理由において、児童生徒の数の将来的な問題は言わないといけない。
- 東中をみても1学年が10人を切るような現実がもう見えている。そうであるから4分割の学区で進めていくということと言わないと理解してもらえない。

(4) 情報共有

事務局：説明

- ①山県方式（岐阜県山県市）
- ②豊丘地域づくり市民会議報告書
- ③豊丘地区区長会の提言書

委員長：

- 山県方式は移動にともなう子どもたちへの負担がすごくあると感じる。

5 その他

中村課長：

- 検討委員会での議論の状況について、出せる情報を回覧版や市HPで少しずつ出していきたい。本日配布した広報案について意見があれば、後日でも教えていただきたい。

6 閉会